

「じぶんでできるよ」 ～えがおいっぱい だいさくせん～

本単元と関連する9年間で育成する資質・能力

主体性

日 時：令和5年11月17日（金） 11：00～11：45

1 指導の方向性について

○単元観

○児童観（第1学年 14名）

【1学年テーマ 生き方学習】

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)生活科の第1学年及び第2学年の内容「(2)家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。」を受けて設定した。

「じぶんでできるよ～えがおいっぱいだいさくせん～」では、自分や家族の生活をふり返ったり、家庭生活の中で自分が出来ることを考えたりした後、実際に活動に取り組むことにより、自分の役割を積極的に果たすことができるようになることをねらう。実際に活動に取り組むことを繰り返し行うことにより、自分でできたという充実感や家族のよさ、家族の一員としての自分の存在に気付くことができる単元である。

【児童の実態】

本学級の児童は、学校生活の中で自分でできることが増えてきた。日直や給食当番・係活動に対して積極的に取り組み、工夫する姿も見られる。

しかし、「家の手伝いをしている。」という質問に対し、「よくしている・している」と答えた保護者は29%、「あまりしていない・していない」と答えた保護者が71%であった。家の手伝いをしている児童が少ないという実態がある。また、「いつも手伝いを自らしている。」と答えた児童は0%で、家庭で自分の手伝いを積極的に果たそうとしている児童がいない。

【9年間で育成する資質・能力と関連する実態】

「主体性」…「自分で決めて、挑戦している。」「生活の中で、ふしぎに思うことやなぜだろうと思うことがある。」という項目に対し、ほとんどの児童が肯定的に捉えており、意欲をもって学習に取り組むことができている。しかし課題を解決するために、自分から働きかけたり、友達と協力することは難しい。

「伝え合う力」…「自分の考えたことについて、わけや理由をもって話している。」という項目に対して、ほとんどの児童が肯定的に捉えており、「だからです。」「からです。」を使って発表できるようになった。しかし、伝えたいことが相手に伝わるかどうかを判断して伝える内容や伝える方法を定めることは難しい。

○指導観

【本単元における指導の方向性】

- 単元を通した問いとして「家族がえがおになるために、自分ができることはなんだろう。」を設定し、自分や家族の生活の様子を思い起こしたり調べたりしたことをまとめる活動を行う。そして、自分と家族の生活を比べ振り返ることで、自分でできることを考え、自分の役割を積極的に果たせるようにする。
 - 自分でできることを見つけ取り組み、気付いたことや困ったことを伝え合い、取り組んだ時のコツを紹介する活動を行うことによって子ども達の活動を広げ深めていきたい。また、話し合いや伝え合う活動では、相手や目的を明らかにすることで、相互の違いを認めて理解し合うことや受け入れることの重要性に気付けるようにする。
 - さらに、児童の実践に対して、家族から感想を伝えてもらうことで、家庭の役に立っている充実感を感じ、自分に自信をもって生活することができるようにしたい。そのため、保護者に単元のねらいや目標を伝え、どのような関わり方をしてもらいたいか伝え、家庭と連携しながら学習を進めていく。
- 探究的な学びを実現するために次の2点に留意して指導する。
 - ①児童が主体的に学ぶための支援
 - 子ども達が取り組むことに「○○だいさくせん」と名前をつけさせ、意欲を高める。自分が取り組んだことをより上手くするにはどうしたらよいか、家族がえがおになるためにはどうしたらよいか、一人一人が課題をもち解決するために自分で考えたり友達と考えを交流したりする時間を確保する。
 - 児童が見通しをもって学習を進めることができるよう、学習計画は「単元構想図」として掲示し、児童の学習の軌跡を残すようにする。
 - ②アンケートや思考ツール、タブレットの活用
 - 現状を把握するためのアンケートの実施や、思考や調査結果を可視化するために、思考ツールを活用する。日記や絵だけでなく、クロムブックを使用して写真や動画を撮り活動の足跡を残し、できることが増えたという実感がもてるようにする。

2 小・中9年間で育成したい資質・能力

	前期（小1～小4）	中期（小5～中1）	後期（中2～中3）
主体性 □やる気 □自主性 □課題発見力	身近な人・もの・ことに進んで関わり、意欲をもって学習したり生活したりすることができる。	課題を解決するために、自分から進んで、身近な人と協力しながら行動している。	課題を解決するために、自分から進んで、身近な人と協力しながら行動するとともに、解決への見通しをもち、他者の考えを受け入れ、よりよい解決を目指している。
伝え合う力 □表現力 □傾聴力 □対話力	自分の考えや思いを、言葉・絵・動作・劇・資料によって、相手に伝えたり、自分の学習を振り返ったりすることができる。	伝える内容が、相手に分かりやすく伝わるように、目的に応じて資料を作ったり、複数の資料を組み合わせたりして表現することができる。	目的や相手に応じて、精査した情報を吟味したり、資料を再構成したりして、根拠を明確にして適切に表現することができる。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標		
<p>家庭生活について、調べたり、尋ねたりすることを通して、自分の家庭生活を振り返り、家庭生活を支えている家の人のことや、家の人のよさ、自分でできることなどを見付け、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活しようとするができるようにする。</p>		
単元の評価規準		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 家庭において、自分が家の人に支えられていることに気付いている。</p> <p>② 家庭において、自分の生活のリズムを整えている。</p> <p>③ 家の人には、それぞれに果たしている仕事や役割があることに気付いている。</p> <p>④ 自分自身が家庭を構成している大切な一人であることに気付いている。</p>	<p>① 自分の生活と比較しながら、家の人の生活を見たり聞いたりしている。</p> <p>② 自分が家庭で役割を果たしている姿を考え、家で取り組むことを決めることができる。</p> <p>③ 活動前の自分と今の自分を比較して、できるようになったことを話している。</p>	<p>① 家の人の役に立ちたいという思いをもち、試行錯誤しながら、家庭での自分の役割を果たそうとしている。</p> <p>② 自分が家庭の役に立っていることを実感し、自分の役割を果たしていこうとしている。</p>

4 本単元に関する「本質的な問い」について

【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

家族がえがおになるために、どのように関わればよいのだろう。



【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

家族がえがおになるために、自分ができることはなんだろう。



【個別の問い】（授業内で身に付ける知識・技能等）

- 家族はどのようなときにえがおになるのだろう？
- 家族のえがおをふやすには、どのようなことができるのだろう？
- 家庭生活をもっとよくするにはどのようなことができるのだろう？

単元名 「じぶんでできるよ」
～えがおいっぱい だいさくせん～

思い・願い

第1次 ☆じぶんの いちにちを みつめよう(2)
○かぞくのひとりとして えがおにするには どうしたらいいのかな?

つなげる
がっかつ
「かかりをきめよう」

プレゼントをわたしてあげよう。 おうちをきれいにしよう。 おてつだいをしよう。 ダンスをおどろう。

活動

○じぶんの いちにちを ふりかえろう。

つなげる
さんすう なん
「なんじ はん」

できることがどんどん 増えてきた。
もっと知りたい! 自分だけでなく 家族のこともしらべたいな!
おどろとといっしょに あそびます。

考える

第2次 ☆じぶんで できることを しよう(6)
○かぞくの いちにちを しらべよう。

分ける・くらべる
こくご
「しらせたいな、み せたいな」

いえのひとがしてくれている ことはおおいな。
おかあさんはごはんを つくってくれていました。
ごはんをはこぶ。 せんたくものをあらう。
せんたくものをほす。 せんたくものたたむ。

まとめ

○かぞくは、わたしたちのことを ささえてくれている。

くらべる・つなげる
どうとく
「がんばるこころ」

おうちにはいろいろな しごとがあるな。
ごはんをつくってくれて ありがとう。
わたしも、ごみだしを してみようかな。

願い

○かぞくは どのようなときに えがおになっているのかな?

評価
知識・技能 ①②
思考・判断・表現 ①

<p>できるが増えるのえがお</p> <p>じぶんでおきたとき。 いもうとと なかよくしたとき。 じぶんでできることは じぶんでやろう。</p>	<p>ありがとうのえがお(いえのこと)</p> <p>くつならべを したとき。 おてつだいを したとき。 たべたあとに かたづけをしたとき。</p>
--	--

たのしいのえがお

いっしょにやきゅうをしたとき。
りょうこにいったとき。

じぶんでできる、できるが増えるのえがおとありがとうの えがおがふるといいな。

体験

くつそろえ うわぐつあらい さらあらい せんたくものたたみ

つなげる
がっかつ
「すみずみまでそ うじをしよう」

思い

○じぶんで できることを しよう。【本時 6/12】
「かぞくのえがおいっぱい だいさくせん」

家で活動

いえのひとにしてもらっていたことを
じぶんでやってみようかな。

くつならべだったら
じぶんでできそうだな。

さらあらいにちょうせん
してみたいな。

やすみのひにじぶんで
うわぐつをあらってみよう。

あさ、じぶんでおきれのように
めざましをかけてみよう。

けいかくに とりくもう!!!

感じる
考える

・「かぞくのえがおいっぱい だいさくせん」はどうだったかな？
(きろくカード)

くつならべができるようになったから
くつあらいにちょうせんしたいな。

うちのひとにほめられたよ。

じぶんでできるよう
になったことがたくさんあるよ。

もっとじょうずになりたいな。

さらあらいがむずかしかったな。
どうしたらよいのだろう。

できることをどんどん
ふやしていきたいな。

評価
知識・技能 ③
思考・判断・表現 ②
主体性 ①

思い・願い

第3次 ☆これからも つづけよう(4)
○これからもつづけよう。
「かぞくのえがお もっといっぱいだいさくせん」

つなげる
さんすう
「なんじなんじ
はん」

家で活動

できるが増えるのえがお

あきあき
じかんわりを
じぶんでやってみよう。

はやね、はやおきが
できるようになりたいな。

ありがとうのえがお(いえのこと)

おかあさんがたいへんそうな
ふるそうじをほくもやってみようか

ときどきではなく、
まいにちへやの
かたづけをしよう。

さらあらいのコツを
しらべてみよう。

けいかくに とりくもう!!!

あいさつもまいにちがんばろう。

感じる
考える

・「かぞくのえがお もっといっぱい だいさくせん」は
どうだったかな？
(ふりかえりカード)

つなげる
こくご
「じどう車く
らべ」

できるようになったことが
ふえてうちのひとに
ほめられたよ。

さくせんだいせいこう!
えがおがいっぱいふえて
うれしいな。

たいへんだったな。
いつもかぞくが
してくれていたんだね。

できるようになったことが
ふえてうれしいな。
これからもつづけて
いきたいな。

表現

・がんばったことや これからもとりくみたいことを
はっぴょうしよう。

評価
知識・技能 ④
思考・判断・表現 ③
主体性 ②

さらあらいのこつは
まわりをキュッキュツと
つかむことだよ。

おてつだいをくふうすると
ピカピカになってうれしいな。

じぶんでできることが
4つふえました。

かぞくっていいな。

これからも、かぞくとちからを
あわせてげんきにたのしくすごしたいな。

まいにちがんばってつづけると
じょうずになりました。

これからもできることをふやしたいな。



6 本時の展開（6/12時間）

（1）本時の目標

自分が家庭で役割を果たしている姿を考え、家で取り組むことを決めることができる。（思考・判断・表現②）

（2）学習展開

	(番号)児童の学習活動 ○発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ●評価						
課題の設定	<p>1 前時までの学習を振り返る。 3つにわけた、かぞくのえがおについて確認する。 ・「できたがふえたのえがお」と「ありがとうのえがお」と「たのしいのえがお」がありました。 ・自分でできる、「できたがふえたのえがお」と「ありがとうのえがお」を増やしていくよ。 前時に取り組んだ、「靴揃え」「上靴洗い」「皿洗い」「洗濯物たたみ」について振り返る。 ・上靴洗いが難しかったな。 ・もっと上手になりたいな。 ・皿洗いをもっとしてみたい。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>めあて 自分でできることを決めて、家族をえがおにしよう。</p> </div>	<p>・前時までに作成したワークシートや単元構想図を掲示し、学習の足跡をいつでも参考にできるようにする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">できたがふえたのえがお</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">前の自分より、できることが増えたとき。上手にできるようになったとき。規則正しい生活を送ることができたとき。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">ありがとうのえがお</td> <td style="padding: 2px;">家の人の役に立ちたいという思いをもち、家のお手伝いや仕事に主体的に取り組むとき。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">たのしいのえがお</td> <td style="padding: 2px;">家の人と支えあえているとき。一緒に何かを楽しんでいるとき。</td> </tr> </table>	できたがふえたのえがお	前の自分より、できることが増えたとき。上手にできるようになったとき。規則正しい生活を送ることができたとき。	ありがとうのえがお	家の人の役に立ちたいという思いをもち、家のお手伝いや仕事に主体的に取り組むとき。	たのしいのえがお	家の人と支えあえているとき。一緒に何かを楽しんでいるとき。
できたがふえたのえがお	前の自分より、できることが増えたとき。上手にできるようになったとき。規則正しい生活を送ることができたとき。							
ありがとうのえがお	家の人の役に立ちたいという思いをもち、家のお手伝いや仕事に主体的に取り組むとき。							
たのしいのえがお	家の人と支えあえているとき。一緒に何かを楽しんでいるとき。							
整理分析	<p>3 自分でできることを考える。 ○どんなことができるかな。 ・くつならべを学校でできるようになったから、家でもできそう。 ・朝お母さんに起こしてもらっているから、自分で起きられるようになりたいな。 ・お風呂掃除だったらできるかな。 ・洗濯機で回すのは難しいけど、洗濯物を干すことはできそう。</p> <p>4 「かぞくのえがおいっぱいだいさくせん」を考え、ワークシートに書く。 ・靴ならべを、毎日学校へ行く前にしようかな。 ・自分で起きるために、寝る前に目覚まし時計をかけて寝てみよう。 ・洗濯物干しをしたい。宿題が終わったらハンガーにかけて干そうかな。</p> <p>5 自分が考えた、「かぞくのえがおいっぱいだいさくせん」を友達と交流し合う。</p>	<p>・それぞれの家庭の違いをよさとして認められるよう、声掛けを行う。</p> <p>・自分ができることを考えるときに、家族のえがおにつながっているか問いかける。 ・ワークシートに自分でできることを書くことが難しい児童とは、印をつけた紙をもとに話しながら一緒に記入していく。 ・取り組みたいことをより具体的に考えることができるように、自分で決めたことができる子が似ている子ども同士で交流させる。</p>						

